

団体名：フードバンク鳥取（みもぎの会）

代表者名：安田 寿子

事業規模簿：30万円 取扱量：80t ボランティアスタッフ数…10名

施設配布先：児童養護施設、DV 保護世帯、母子支援施設、社協、市役所、シェルター、障がい者支援施設、保護司関係施設、更生施設

活動地域：鳥取県内、島根県松江市、益田市、安来市

事業概要

DV 被害者支援・シェルター事業をみもぎの会として運営。16年間で、1700人以上の自立や司法支援している。また、保護司をしている関係で、刑務所出所後の方にも生活・就労支援をしている。

鳥取県内は、児童養護施設・障がい者施設、自立支援施設、母子支援施設。島根県北東部（松江市、益田市、安来市）を中心に食品配布をしている。

ポイント

【行政との強固な連携】

DV シェルター事業、保護司をしている関係で、自治体、警察、裁判所、少年（少女）院への繋がりがあがる。個別対応の中でのきめ細やかな食品提供ができています。

【行政の理解ある適切な対応】

米子市役所は、DV 被害者に対する理解がある。みもぎのスタッフの紹介や同伴により、窓口では、生活保護費申請や住居の初期費用負担を検討・拋出してくれる。

その米子市役所より生活保護受給までの食糧支援の要請もあり、常時主食などの在庫も必要があるので、適宜提供している。

取り組みの経緯

2010年頃、高知あいあいネットの青木代表から配島が紹介される。DV 被害者支援で実績があり、地域福祉施設との連携も強固であり、2hじからの提供を始めた。

活動方針

【DV 被害者の継続的なケア】

みもぎの会から自立した方にも継続的な相談・ケア、食品提供を行なっている。現在でも約75世帯をサポートしている。

そして、配達可能地域に居住する被害者へ直接配達することにより、シェルター退所後の様子を確認することが出来る。

本人が「孤立していないか」、「病気になっていないか」、「あらたな問題を抱えていないか」等々、心を病んだ被害当事者の長期的サポートに役立っている。

全国的に問題となっている母子の貧困と食育の問題における、解決の糸口として、フードバンク活動が確かなツールとなっているのは実感する。

タイトル、小見出し：MS ゴシック 16 ポイント

文章：MS 明朝 10 ポイント、英数字 century 10 ポイント

活動事例

【子どもへのサポート】

DV 被害者の子どもに必要なに応じて、関係性のある、児童養護施設・保育所を紹介している。

そのDV被害者のお子さんたちは計り知れない大きな傷を抱えていることに対して、みもぎの会関係のお子さんたちが入所する施設等へのプレゼントとして寄贈品の提供をしている。

顔見知りの子もたちが「おじちゃん、おばちゃん」と笑顔で駆け寄ってくる姿がスタッフの癒しでもある。

子どもにとって寄贈品を届けることは、みもぎの会のスタッフのを通じて、継続的に社会との繋がりを保てる大切な関係性作りには、とても有効である。

【フードバンク食品でのサロン活用】

みもぎの会の中では、自助グループ「おはなの部屋」を開設している。

おはなとはハワイの言葉で「大きな家族」という意味、暴力被害者、誰でも、いつでも、自由に使っていいよという地域の善意の提供者から、マンションの一角で活動している。

ここでは、料理教室、お菓子づくり、親子の勉強会、講師を招いての女性学の勉強会、新嘗祭、クリスマス会、論語等開催時の食材等々に利用する。

また、暴力被害者の心の回復を願って、関係ある農家と連携し、年間を通じて農作業(稲作、野菜づくり)、登山宿泊、リンゴ狩り等々の課外活動の食材やおやつにも利用。

提携食品企業

年に 5-7 回：JA 女性会（おコメ）、地域の農家・個人（なし、りんご、お米、野菜）、近隣の
お寺から仏様の供物（お菓子、調味料、おコメ、嗜好品コーヒー、お茶等）

毎月 2,3 回程度：2hj からの加工品など

成果と課題

地域の民生員さん福祉事務所との連携により、地域の見えない困窮者を見つけていく作業が必要となる。

代表の安田さんは、後任者を育てたいが、活動自体ボランティアではなく、ライフワークという無償活動という認識。現在は、活動に協力する若い方がいないので、先行きに不安が残る。現在、県議会議員、行政などのへ継続運営するための予算要求をしている。

貧困層の女性や子ども、社会から疎外された方たちが笑顔になって欲しいとの「崇高な気持ちと情熱」だけでは継続的な活動は困難であると感じている。行政等関係機関はもっと貧困と廃棄食糧の問題に関心を示すべきではないか感じている。